

再評価【番号8】 河川整備課

**総合流域防災事業
二級河川海部川水系 善蔵川**

1. 河川の概要

- 二級河川 海部川水系善蔵川
- 流路延長 7.5km
- 流域面積 5.85km²



H26台風12号 出水時

①



令和3年9月 線状降水帯による豪雨

②



■ : H26台風12号浸水区域(45.4ha)
床上4戸、床下18戸

善蔵川排水機場

2.5m³/s × 2台 + 1m³/s

2. 事業概要

全体事業費

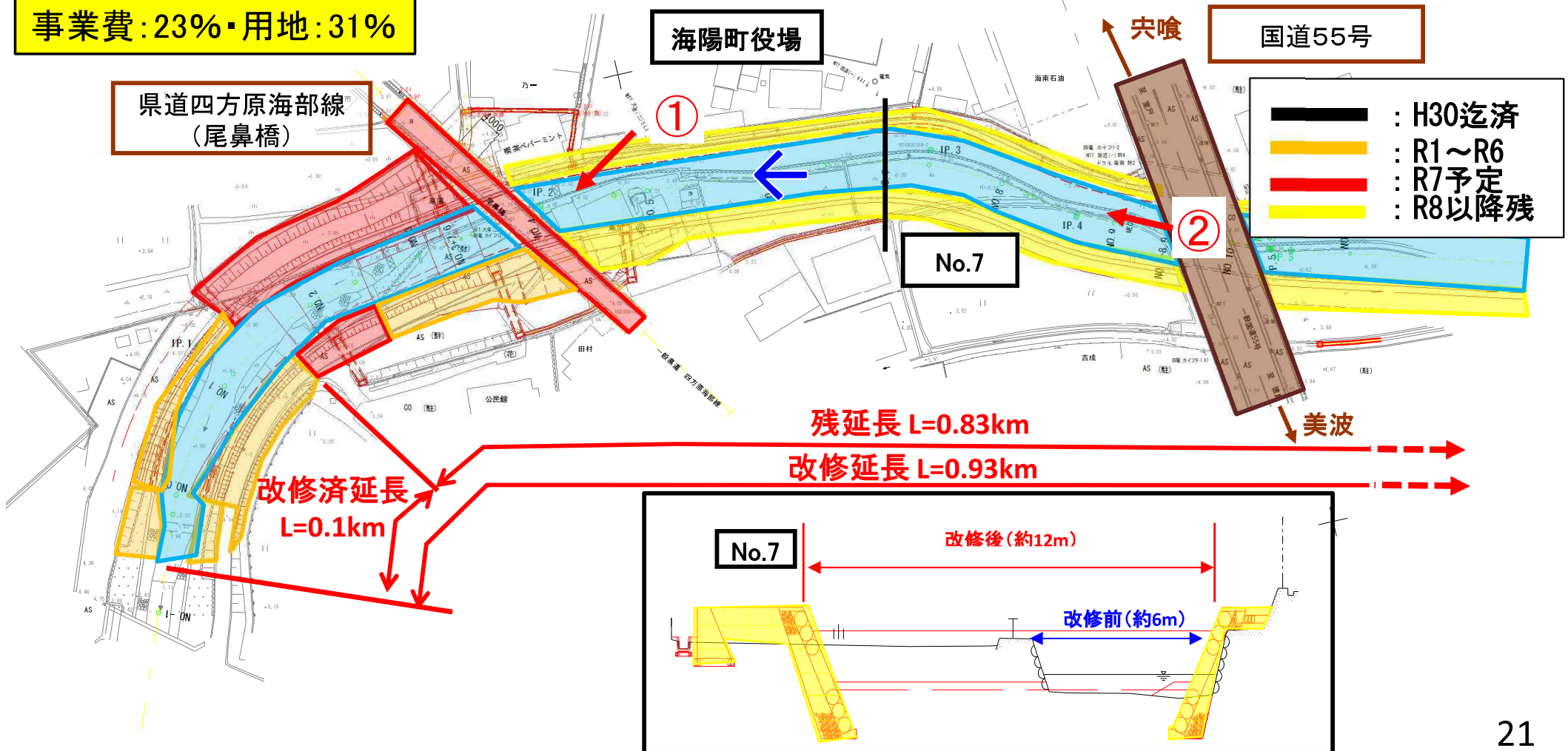
23.0億円 (変更なし)

完成時期

令和20年度 (変更なし)

《進捗率》

事業費: 23%・用地: 31%



3. 整備効果

貨幣換算可能な整備効果

【治水経済調査マニュアルによるB/C】

- ・ 家屋、事業所等被害
- ・ 農作物被害
- ・ 公共土木施設被害
- ・ 営業停止被害
- ・ 応急対策費用 など

↓ 被害軽減期待額
= 便益 B
計 54.2億円

(現在価値化後)

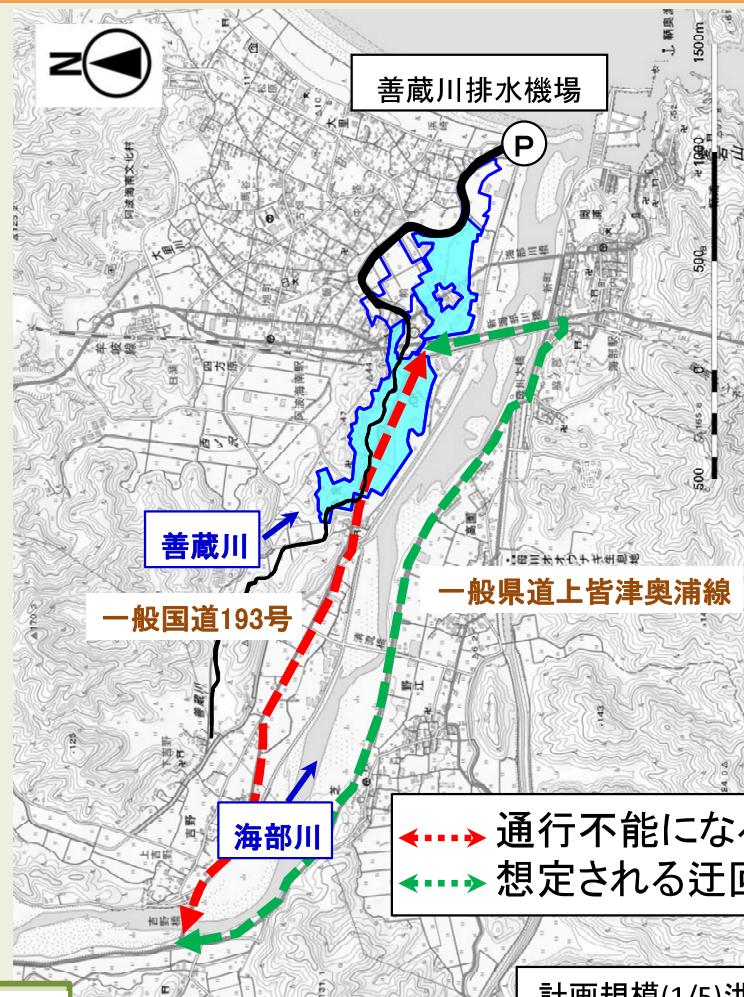
費用 C = 19.6億円

(現在価値化後)

$$B / C = 2.8 \quad (\text{社会的割引率 } 4\%)$$

参考 B/C = 4.1 (2%)、5.2 (1%)

【水害の被害指標分析の手引きによる便益】



←---→ 通行不能になる区間
←---→ 想定される迂回路

経済被害の域内・外への波及被害

交通途絶による被害

出水1回当たり 21.9百万円
の被害を軽減

出水1回当たり 1.2百万円
の被害を軽減

出水1回当たり
被害軽減額
= 23.1百万円

計画規模(1/5)洪水浸水範囲

- : 整備前(32.0ha)
床上浸水4戸
床下浸水52戸
- : 現在(23.9ha)
床上浸水3戸
床下浸水39戸

4. 多様な効果

貨幣価値に表れない整備効果

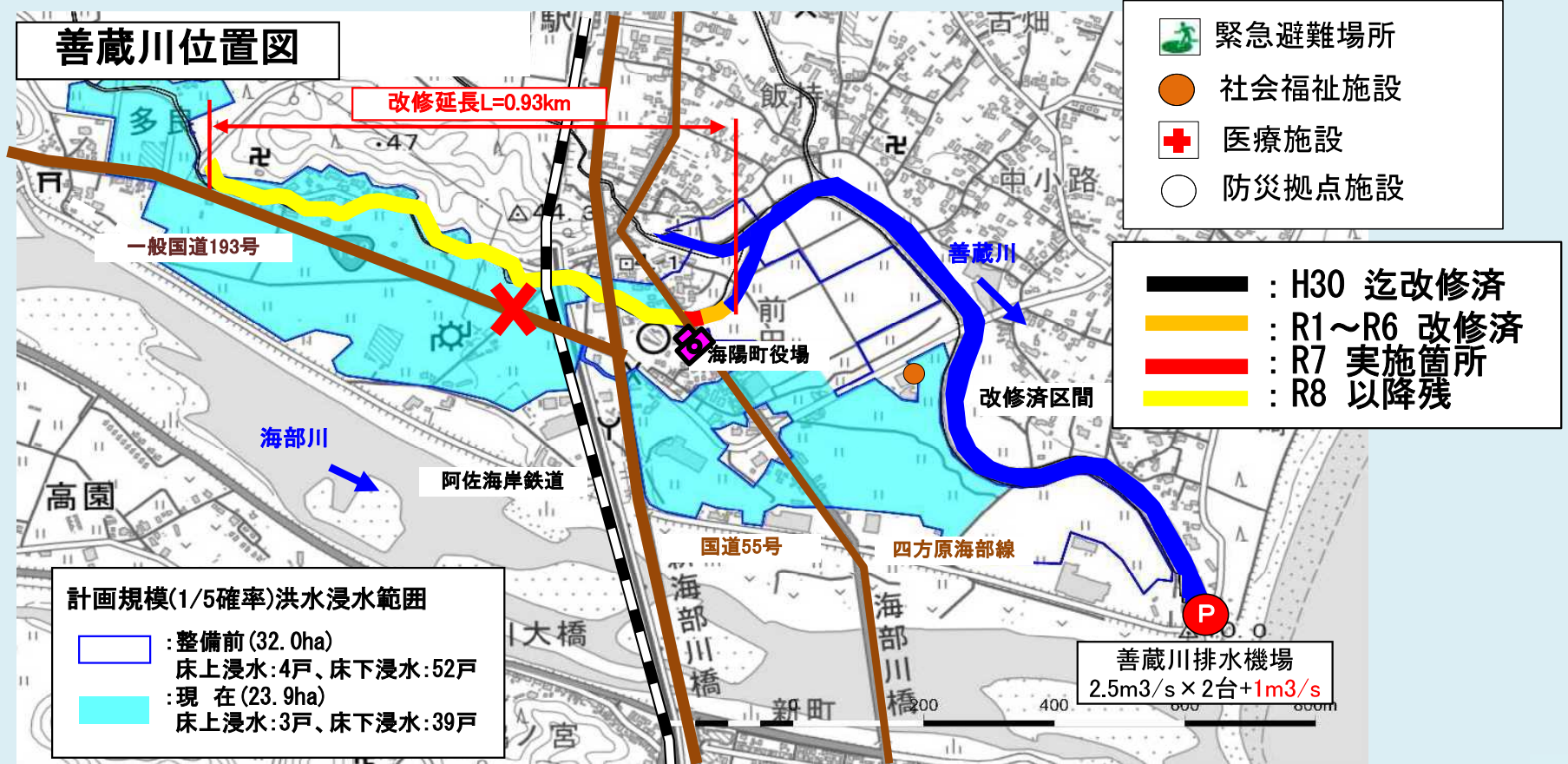
【水害の被害指標分析の手引きによる便益】

人的被害の軽減

①浸水区域内人口	118人
②浸水区域内の災害時要援護者数	61人
③最大孤立者数	13人
④被災する事務所の従業員数	22人

その他の被害軽減

- ①緊急輸送道路の途絶解消
1路線(国道193号)



5. 事業評価結果

貨幣換算可能な整備効果

【治水経済調査マニュアルによるB/C】

- ・ 家屋、事業所等被害
- ・ 農作物被害
- ・ 公共土木施設被害
- ・ 営業停止被害
- ・ 応急対策費用 など

↓ 被害軽減期待額
= 便益 B
計 54.2億円

(現在価値化後)

費用 C = 19.6億円

(現在価値化後)

$B / C = 2.8$ (社会的割引率 4%)

参考 B/C = 4.1 (2%)、5.2 (1%)

出水 1 回当たり被害額 = 2.3百万円

(交通途絶被害、経済の波及被害)

貨幣価値に表れない整備効果

【「水害の被害指標分析の手引き」による便益】

人的被害の軽減

- ① 浸水区域内人口の減少
- ② 浸水区域内災害時要援護者数の減少
- ③ 浸水区域内最大孤立者数の減少
- ④ 被災する事業所の従業員数の減少

その他の被害の軽減

- ① 緊急輸送道路の途絶解消



■ 今後の対応方針 (案)

事業継続